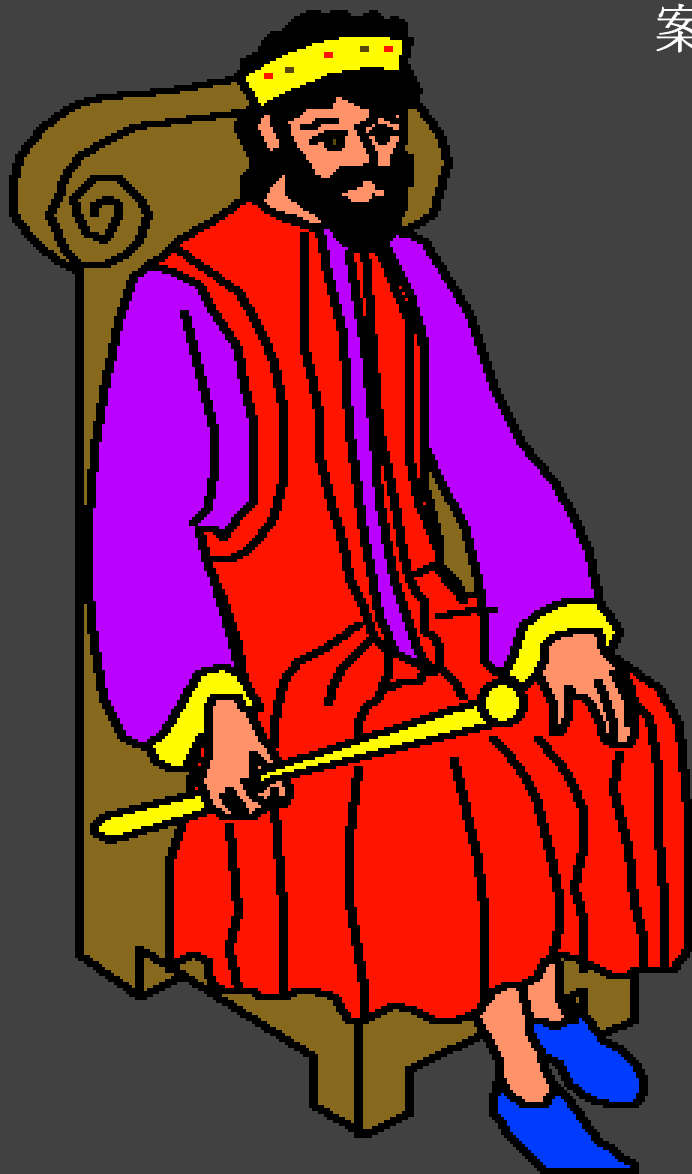


こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



おう

かしこい王さま、  
ソロモン



<sup>ぶん</sup>  
文: E. Duncan Hughes

<sup>え</sup>  
絵: Lazarus

<sup>かいさくしゃ</sup>  
改作者: Ruth Klassen

<sup>ほんやくしゃ</sup>  
翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

<sup>しゅっぱんしゃ</sup>  
出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

©2007 Bible for Children, Inc.

<sup>きよか</sup> 許可: <sup>たにん</sup> 他人に <sup>う</sup> 売らない限り <sup>かぎ</sup> 限り <sup>はなし</sup> このお話の <sup>また</sup> コピー、又はプリントは、  
<sup>きよか</sup> 許可されています。



ダビデ王は、神さまのとてもよいしもべでした。ダビデが王さまのあいだ、イスラエルの国は、どんどん大きくなっていきました。サウルが王さまだったときの10倍にもなったのですよ。けれどもダビデは、もう長く王さまでいることは、できないようです。

もうすっかり年をとってしまいましたからね。つかれてしまったのです。

しかも、病気になるてしまいました。ダビデの命は、もうそろそろおわりそうです。

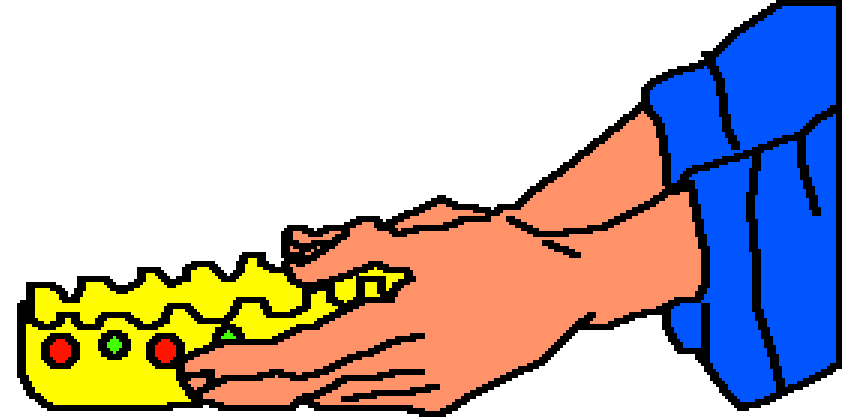




ダビデには、たくさんのむすこが  
な  
ありました。その中のひとりアドニヤは、  
ひとびと い  
イスラエルの人々にこう言いました。「  
いま おう  
今はもう、わたしがここの王なのだ。」と。  
な しゅ かみ  
アドニヤという名は、「わたしの主は、神」と  
い み かみ  
いう意味ですが、かれは神さまのよいしもべで  
はありませんでした。アドニヤは、お父さん  
おう とし よわ  
ダビデ王が年をとり弱くなっているとわかり、  
じぶん つよ おも  
自分のほうが強くなったと思いました。そこで  
じぶん おう  
自分が王になろうとしたのです。でもね、  
かみ けいかく  
神さまは、ちゃんとほかのことを、計画  
していらっしやいました。



ダビデのおくさんバテシバは、かの  
じょ おう  
女のむすこソロモンが、つぎの王に  
しん  
なると信じていました。そこで、バ  
わる  
テシバはダビデに、アドニヤの悪い  
けいかく はな  
計画を話しましたよ。するとどうで  
びょうき た  
しょう。病気のダビデは、すぐに立  
あ くに  
ち上がり、国のリーダーたちをあつ  
くに ひとびと  
めました。そしてこの国の人々みん  
い つぎ  
なにこう言いました。「次のイスラ  
おう  
エルの王は、ソロモンである。」



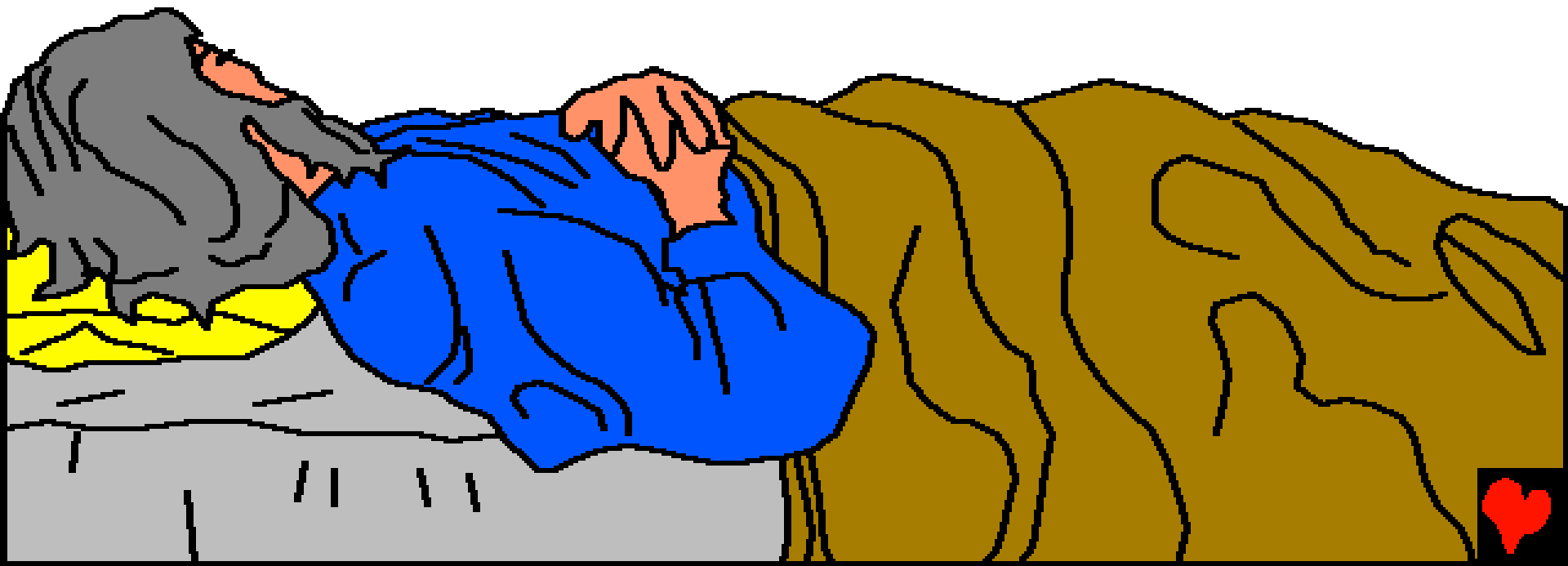
ひとびと

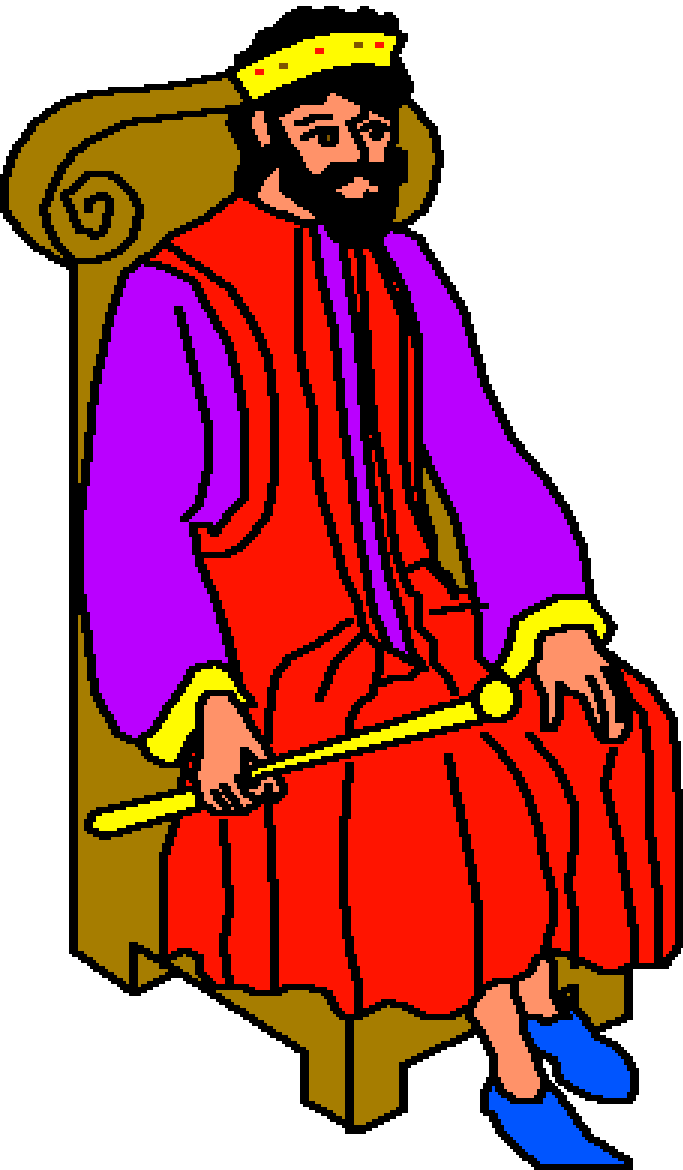
だいす

い

ただ

イスラエルの人々は、みんなダビデが大好きです。かれの言うことは、正しいと  
信じました。ですからソロモンは、どちらが王になるかで、もうアドニヤと争  
うことはありませんでした。ダビデは、「ソロモン、神さまがおまえをイスラエ  
ルの王にえらばれたのだよ。」と言いました。こう言ったすぐあとで、ダビデは  
とうとう亡くなってしまいました。





な  
ダビデが亡くなるまえ、かれはソロモン  
かみ  
に、神さまにしたがうことと、よい王さま  
おう  
までいることをおしえました。「ソロモ  
かみ  
ン、いつも神さまにしたがって生きてい  
い  
くんだよ。そうすれば、おまえのすること  
は、みんなうまくいくからね。」ダビ  
い  
デの言ったことは、わたくしたちにも  
たいせつ  
大切なことですね。こうしてソロモン  
とう  
は、お父さんダビデにつづいて、王さま  
おう  
になりました。ソロモンの王国は、だん  
おうこく  
だんつよく大きくなっていきましたよ。  
おお



ある<sup>よる</sup>夜のことで  
す。ソロモンはゆ  
め<sup>み</sup>を見ました。ゆ  
め<sup>なか</sup>の中で、神さま<sup>かみ</sup>  
があらわれて言わ  
れました。「ソロ  
モンよ、言<sup>い</sup>ってみ  
なさい。わたし  
は、あなたに何<sup>なに</sup>を  
あたえよう。あな  
たは、わたしに何<sup>なに</sup>  
がほしいのか。」



ソロモンのこたえは、こうでした。「<sup>かみ</sup>神さま、<sup>おう</sup>わたしがよい王さまになれますよ  
うに、あなたの<sup>ちえ</sup>知恵をください。何が<sup>なに</sup>正しく何が<sup>ただ</sup>何が<sup>なに</sup>  
まちがっているかわかりますように。」

<sup>かみ</sup>神さまは、ソロモンのこたえ  
を、たいそうよろこばれま  
した。そして、ソロモン  
はこのぞんだとおり、  
<sup>かみ</sup>神さまから<sup>ちえ</sup>知恵をい  
ただきましたよ。  
でもね、それだけでは  
ありません。その  
ほかに、たくさんの  
<sup>たから</sup>宝も、また人々が  
<sup>しん</sup>かれを信じ、した  
がうようにもして  
くださったのです。



たみ

おう

イスラエルの民は、ソロモンがほんとうにかしこい王さまであることは、すぐに

ひ ふたり かあ ひとり あか

わかりましたよ。ある日、2人のお母さんが1人の赤ちゃんをつれてやってきま

ひとり かあ ひとり かあ い おう

した。1人のお母さんが、もう1人のお母さんをゆびさして言いました。「王さ

ひと あか よなか し

ま、この人の赤ちゃんは、夜中に死んでしまったのです。それ

い あか と じぶん し

で、わたしの生きている赤ちゃんを取って、自分の死

あか と

んでしまった赤ちゃんと取りかえてしまったんで

ひとり い

す。」すると、もう1人が言いました。「いい

い あか

え、そうではありません。この生きている赤

こ

ちゃんは、ほんとうのわたしの子です。」

おう

はてさて、ソロモン王は、どうするの

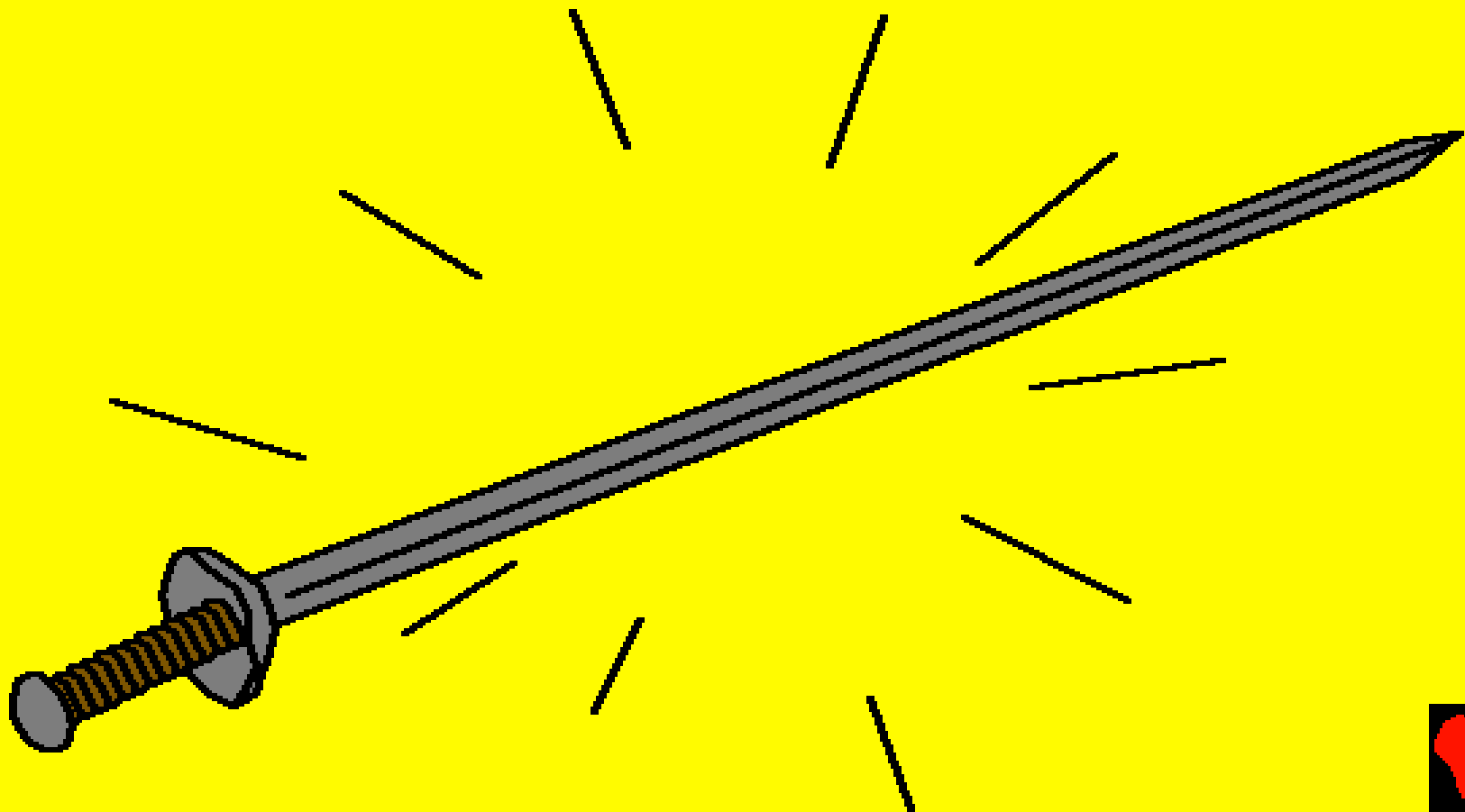
でしょう。いったいどちらが、ほん

かあ

うのお母さん？



ソロモン王は言いました。「ここに、わたしのつるぎをもってきてなさい。」そこで、かれらは、王さまのつるぎをもってきましたよ。さて、みなさん、いったいソロモン王は、つるぎで何をするつもりなのでしょう。



それから、王<sup>おう</sup>さまは言<sup>い</sup>いました。「さあ、その生<sup>い</sup>きている子<sup>こ</sup>を、このつるぎで2  
つに切<sup>き</sup>ってしまいなさい。その半<sup>はんぶん</sup>分<sup>ぶん</sup>は、1人のお母<sup>かあ</sup>さん、そしてあと半<sup>はんぶん</sup>分<sup>ぶん</sup>は、も  
う1人のお母<sup>かあ</sup>さんにあたえよう。」すると、1人のお母<sup>かあ</sup>さんは叫<sup>さけ</sup>んでいいまし  
た。「いいえ、それはやめてください。生<sup>い</sup>きている子<sup>こ</sup>は、か<sup>か</sup>の女<sup>じょ</sup>にわたしてくだ  
さい。子<sup>こ</sup>どもをころさないで！」



けれども、もう1人のお母さんは、こう言っ  
たのです。「この子を、わたしのものでも、  
あなたのものでもないように、つるぎで切っ  
て分けましょう。」



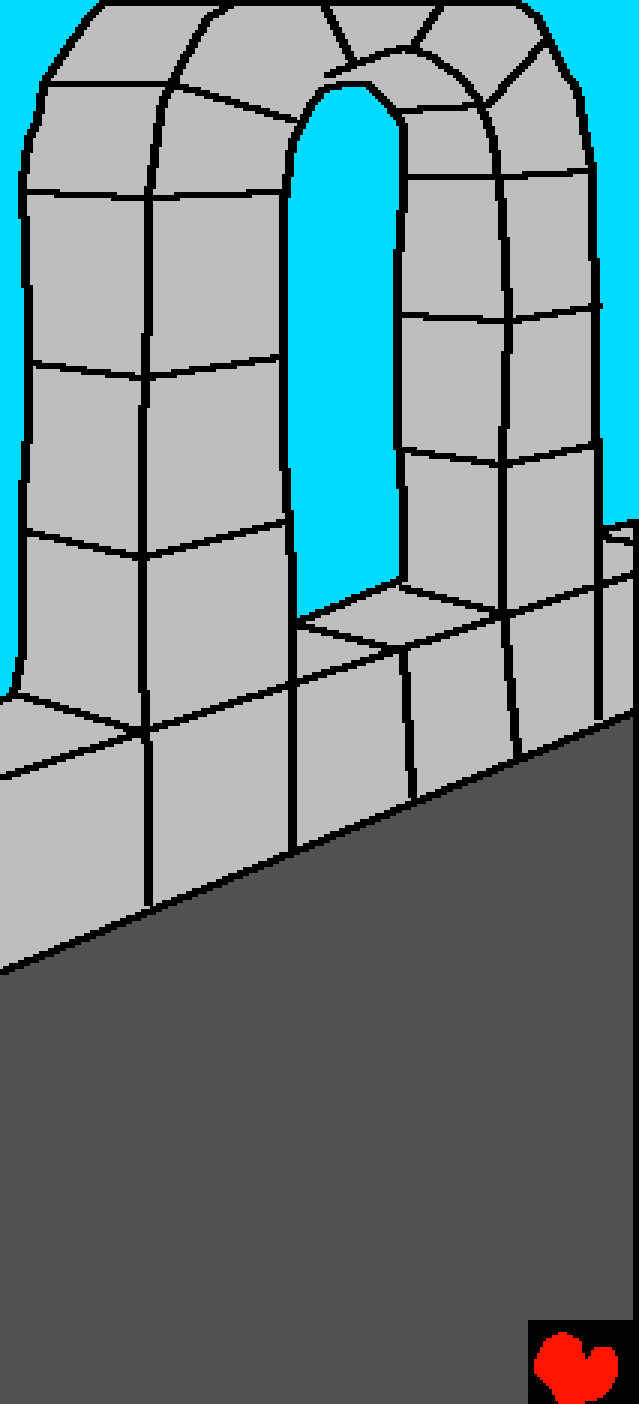


そこで、王<sup>おう</sup>さまは言<sup>い</sup>いまし  
た。「その生<sup>い</sup>きている子<sup>こ</sup>  
を、はじめの女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>にわた  
しなさい。その人<sup>ひと</sup>が、ほん  
とうのお母<sup>かあ</sup>さんです。」さ  
て、この話<sup>はなし</sup>を聞<sup>き</sup>いたイスラ  
エルの人々<sup>ひとびと</sup>は、みんな思<sup>おも</sup>い  
ました。ソロモン王<sup>おう</sup>は、な  
んてえらいのだろうって。  
神<sup>かみ</sup>さまが、ソロモン<sup>ちえ</sup>に知恵  
を<sup>あた</sup>えられ、いつも助<sup>たす</sup>けて  
くださっているんですね。

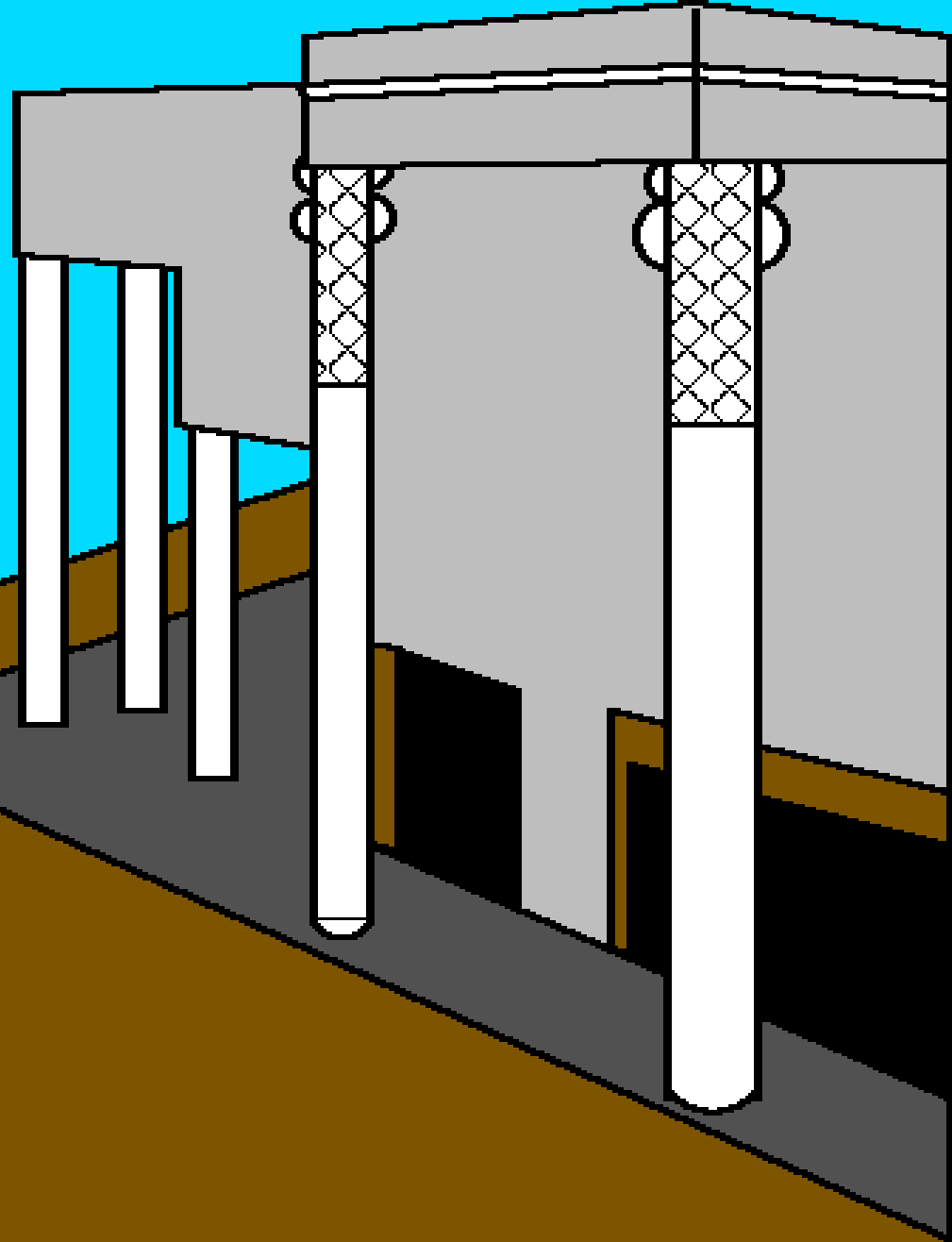


ひとびと かみ れいはい しん

イスラエルの人々は、神さまを礼拝する神でんがあり  
ませんでした。まえに、ダビデが神でんをたてようと  
したことがありましたね。そのとき、神さまはこう言  
われました。「ダビデ、あなたのむすこがわたしの家  
をたてるだろう。」ってね。そこで今、ダビデのむす  
こソロモンは、エルサレムにすばらしい神でんをたて  
はじめましたよ。



その<sup>しん</sup>神でんをたてるのに、なんと7  
<sup>ねん</sup>年もかかったのです。でもやっと、  
できあがりました。ソロモンが主<sup>しゅ</sup>に  
その<sup>しん</sup>神でんをささげると聞いて、た  
<sup>ひと</sup>くさんの人があつまってきました。



こころ

はじめに、みんなで心をあわせて

いの

おう

お祈りしました。それから王さまも

ひとびと

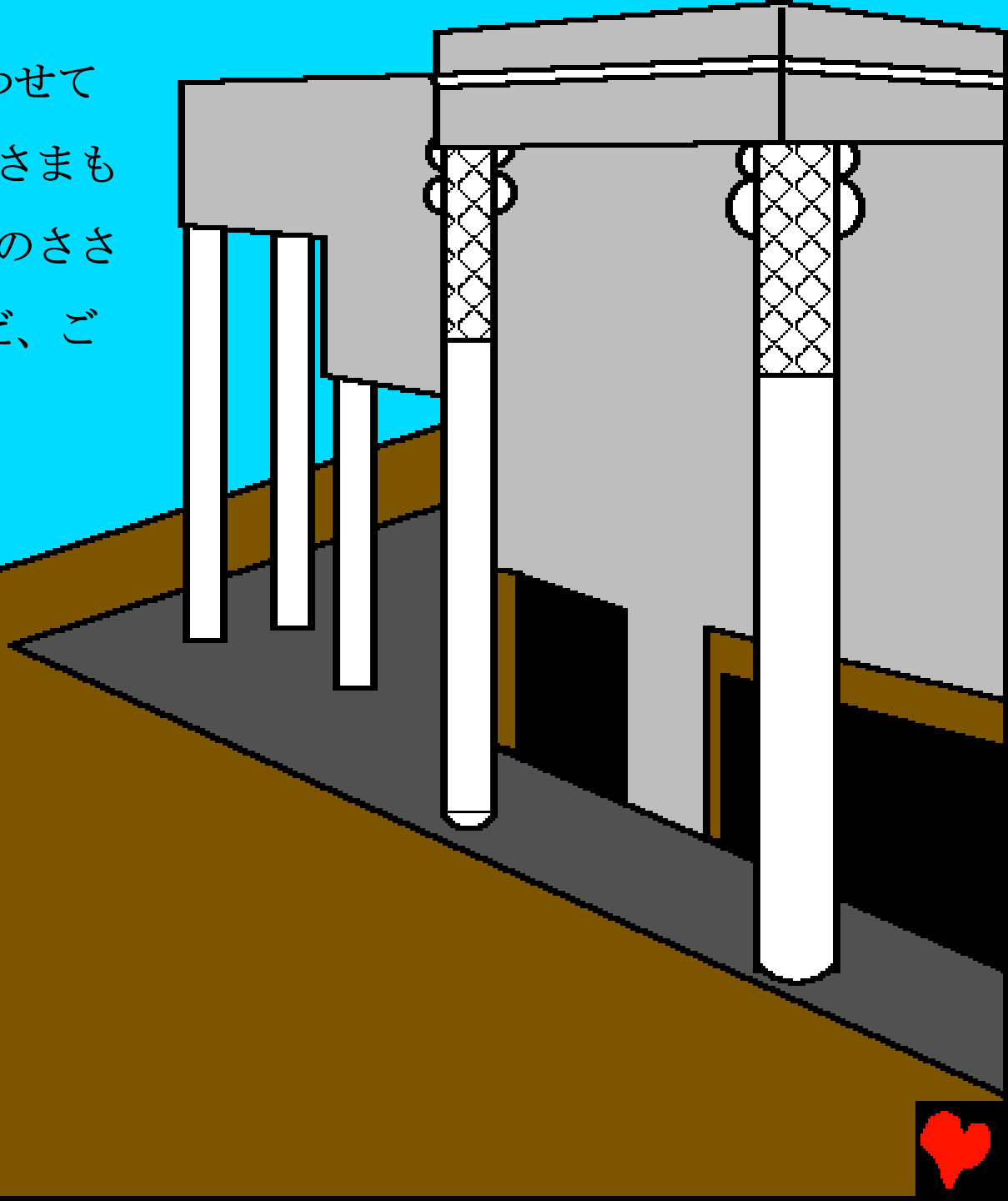
人々も、よろこんでたくさんのささ

もの

しゅうかん

げ物をし、2週間ものあいだ、ご

ちそうをいただきましたよ。



かみ

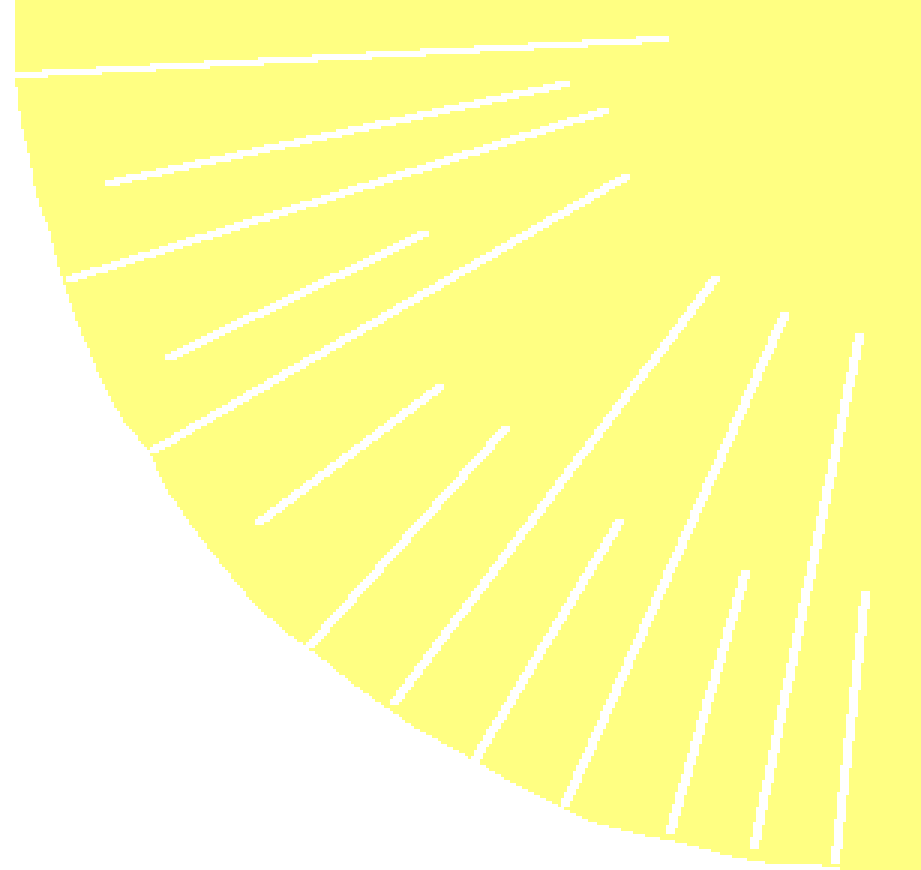
このあと、神さまはまた、ソロモンの  
ところにあらわれてやくそくしてくだ  
さいました。「ソロモンよ、あなたと

たみ しゅく

イスラエルの民を祝ふくしょう！あな

しゅ

たたちが、主にしたがっているあいだ  
はいつまでも。」



ところが、かなしいことにソロモンも人々も、いつのまにか神さまに  
したがうことを、すっかりわすれてしまったのです。ソロモン王は、  
たくさんの女の人とけっこんしました。でもね、その女の人たちは、  
神さまがよくないと言われていた人たちでした。神さまを信  
じていないおくさんたちは、ソロモンの心を、ぐう像を信  
じるように変えてしまったのです。ソロモンの心は、  
かれの神さまである主からはなれてしまい、  
したがわなくなってしまうました。  
お父さんダビデは、いつも主だけを信じていたので  
すけれどね。

ひとびと

かみ

おう

おんな ひと

かみ しん

ところ ぞう しん

か

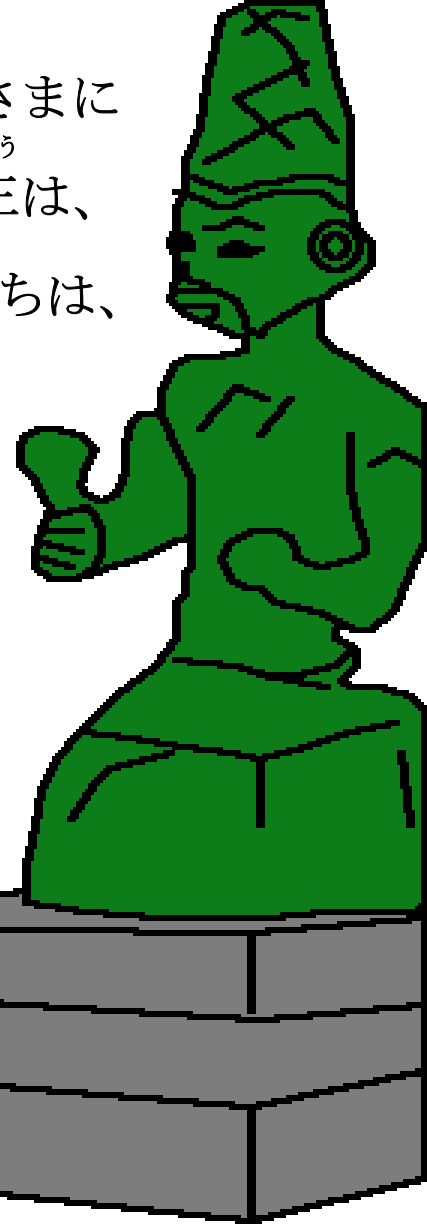
ところ

かみ

しゅ

とう

しゅ



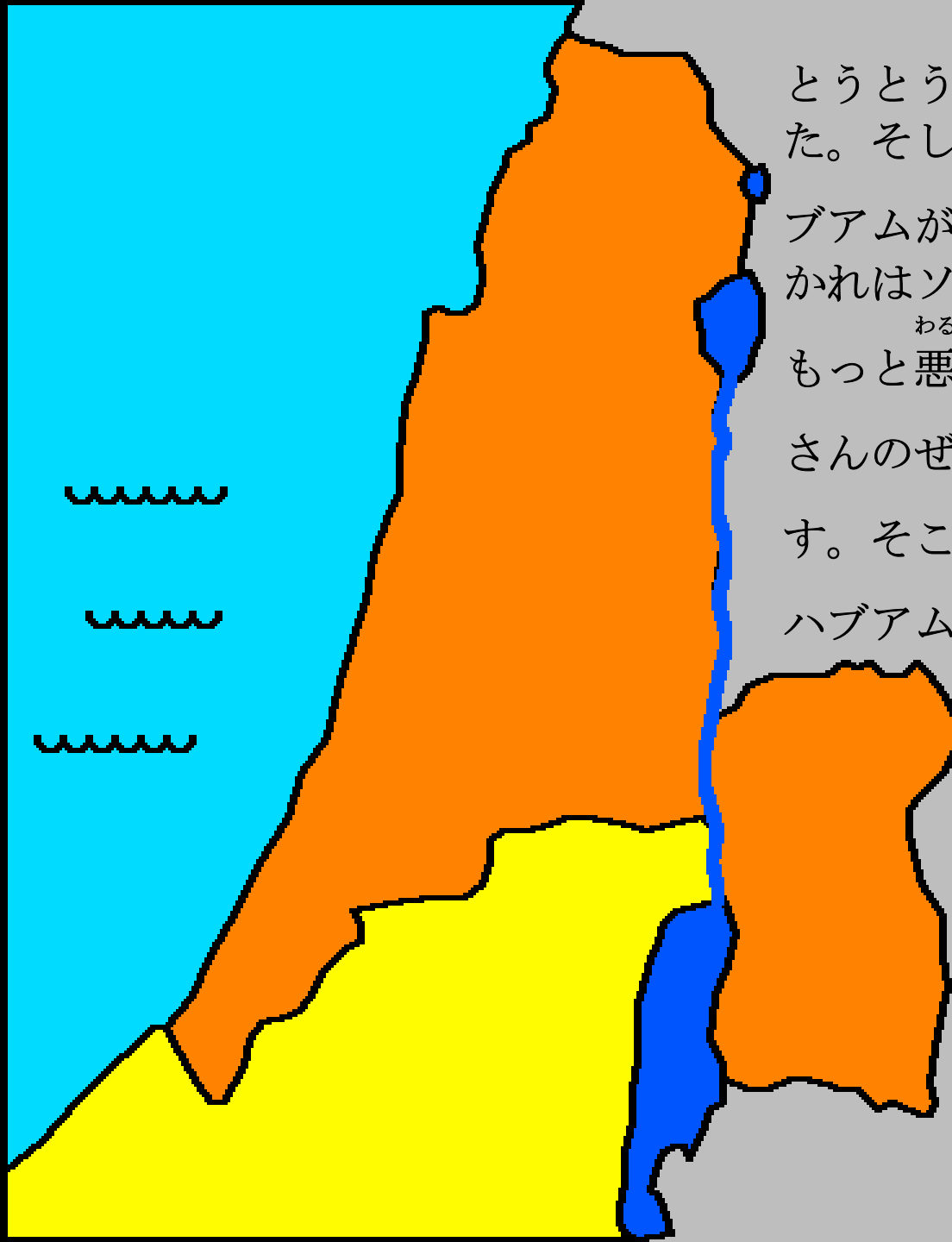
かみ

ソロモンが、神さまからすっからはなれているときのことです。ソロモンのめし  
つかいの1人にヤロブアムという人ひとがいました。このヤロブアムにふしぎなこと  
がしゃおこりましたよ。あるよげん者が、かれのところにあらわれて、こんなことを  
いかみ言ったのです。「ヤロブアム、神さまは、ソロモンの国を12の部くにぞくぶに分けよわ  
うとされている。



そのうちの10の部<sup>ぶ</sup>ぞくは、あなたのものとなるだろう。」それを<sup>き</sup>聞いたヤロブ  
アム、大<sup>おお</sup>急<sup>いそ</sup>ぎでエジプトへにげましたよ。どうして<sup>て</sup>って、もし自分<sup>じぶん</sup>がここにいた  
ら、ソロモンに<sup>おも</sup>ころされてしまうだろうと思ったからです。





とうとう、ソロモンが死んでしまいました。  
そしてつぎに、ソロモンのむすこレハ  
ブアムが王さまになりましたよ。でもね、  
かれはソロモンがやったことより、もっと  
もっと悪いことをしました。人々からたく  
さんのぜい金を取って、くるしめたので  
す。そこで、10の部ぞくの人たちは、レ  
ハブアムにそむいて、あたらしい国をつく  
りました。そして、リーダーに、  
あのエジプトへにげたヤロブアム  
がえらばれたのですよ。こうして  
ソロモンのすばらしい国は、2つ  
に分けられてしまったのです。  
そう、神さまは、したがわかない者  
を、けっして祝ふくなくさ  
らないのですね。



おう  
かしこい王さま、ソロモン

かみ み せいしょ する  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

れつおうきじょう しょう しょう  
列王記上 1 章 - 12 章

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っています。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、思っています。それを、神さま  
は、罪とよばれています。その罪のむくい、死です。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとて愛していますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ しゅうじかじょう な  
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのです。もし、あなたがイエスさ  
しん  
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ  
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて  
わたし なか き つみ わたし いま  
いらしています。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた  
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる  
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす  
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

